

## 今後の宇宙政策の在り方に関する有識者会議 第2回会合 結果要旨

1. 日時 平成22年3月9日(火) 15:00~16:20
2. 場所 前原大臣室(合同庁舎4号館5階)
3. 出席者 (政務三役) 前原大臣(冒頭30分のみ)、泉大臣政務官  
(敬称略) (構成員) 松井孝典、秋山演亮、薬師寺泰蔵、山川宏
4. 議題 (1) 今後の宇宙政策の在り方について  
(2) その他
5. 資料  
資料2-1 秋山演亮委員提出資料  
資料2-2 薬師寺泰蔵委員提出資料  
資料2-3 山川宏委員提出資料

## 6. 概要

松井座長、秋山委員、薬師寺委員、山川委員より、今後の宇宙政策の在り方について、プレゼンテーションを行い、その後、意見交換を行った。主な意見の概要は以下のとおりであった。

- ・ 他国の政策に振り回されることのないよう、我が国としての基本的な政策・スタンスを定める必要があるのではないか。
- ・ 我が国の宇宙政策は中庸すぎる傾向がある。宇宙政策を進めるに当たっては、世界一を取れない分野は意味がなく、そのような観点から絞り込みを行うべきではないか。
- ・ 我が国が目指すべきビジョンとして、「国を支える新市場の育成」、「人類史への貢献」としてはどうか。また、同ビジョンを実現するための組織に関する提案を本会議のアウトプットとしてはどうか。
- ・ 宇宙の更なる利用やビジネス展開を目指したグランドデザインに基づく宇宙政策を定めるべきではないか。
- ・ 宇宙政策をコストの面からのみ見るのではなく、地球観測や安全保障などの観点から見ることも必要ではないか。
- ・ 宇宙関連予算を一元的に決定する権限を持つ宇宙庁を設置すべきではないか。

- ・ 「国を支える新市場の育成」を実現するためには、「我が国と協力して宇宙開発を行う同盟国を確保によるアンカーテナンシーの確保」、「軌道上における圧倒的な技術力／情報力によるデファクトスタンダードの確保」、「教育外交を通じたデジュールスタンダードの確保」が重要ではないか。
- ・ 宇宙新興国に協力することで、宇宙の利用分野の拡大を図るなどの努力が必要ではないか。
- ・ 深宇宙に到達したことがあるのは、我が国を含め限られた国のみである。今後、我が国が同分野を推進していくために施設・設備（アンテナ設備、サンプルの分析施設など）の整備が必要ではないか。また、その整備に当たっては、産業界や大学がタイアップして進めることが重要ではないか。
- ・ 深宇宙探査などを通じて、新たなステークホルダーを開拓するなど、従来になかった柔軟い発想が必要ではないか。
- ・ 国際宇宙ステーションの運用期間延長については、現時点で米国から具体的な提案がなされていないこともあり、我が国として、参加の表明をするのではなく、今後の米国などの動きを見つつ、我が国の対応、協力の在り方などを検討すべきではないか。
- ・ 我が国のロケットの打上げ実績を見れば、他国と比べ、圧倒的に少ないのが現状である。
- ・ GXロケットを教訓にし、ロケットビジネスについて、低コスト化を目指し、再考すべきではないか。
- ・ 現在、検討を進めている月探査については、以下のような意見が出された。
  - ✓ 二足歩行ロボットを目標とすべきではない。
  - ✓ 月をどのように利用するのかをより明確にすべきではないか。
  - ✓ なぜ今、月のみをプレアップするか。
- ・ 体制については、JAXA 内の ISAS の存在については様々意見があるが、例えば分離独立によって ISAS の担っている基礎研究（科学・理工学研究）の部分を守り、かつ競争的環境を作ることも重要ではないか。
- ・ 新成長戦略については、宇宙基本計画に基づいて全体的な記述をすることになると思うが、2020 年までに何をやるのか、何を実現するのかという点について、より明確化した方がいいのではないか。その際、三本柱としてまとめるなど、工夫をしないと、我が国全体の施策を考えたときに予算の確保が難しくなるのではないか。

以上